



山之口獏，新資料発見余聞

仲 程 昌 徳

「びぶりお」Vol 15, No.2, (1982, 3, 25)に紹介された「山之口漠（獏の誤植—筆者注）の新資料発見」記事は、「沖縄タイムス」記者の眼にとまって、同紙4月9日付朝刊の社会面トップで報道されたことによって、さらに多くの反響を呼んだ。

それは、山之口獏の詩の読者層が厚いことを語っている証拠であったと言えるであろうし、また、新資料の発掘は、確かに一つの事件であったと言えるはずである。

獏が、中学時代から詩を書いていたことは、つとに知られていた。しかし、彼の処女詩集『思弁の苑』には、上京前、すなわち沖縄時代に書かれた作品は一つも収録されてないばかりでなく、全くといっていいほどに知られていなかったのである。その理由は、彼が、「琉球新報」その他本島内で刊行

目 次

山之口獏，新資料発見余聞	仲程 昌徳	1
ヤンバルギンモンカ発見の思い出	宮城 一郎	3
核アレルギー性「オランダ病」と核偏執狂	竹田 秀雄	6
36年目の「離乳」	屋富祖昌子	10
ブラウジング・コーナー「水泳大会」		4
〈読書案内〉「日本人の進路」	新井 裕丈	12
お知らせⅠ	5 / 5 / 7 / 10	
お知らせⅡ	5 / 7 / 10	
お知らせⅢ	7 / 10	
お知らせⅣ	10	
本学教官著書寄贈コーナー	13 / 13 / 15	
新着図書案内	13	
図書館事情	15	

されていた新聞に発表していたという自伝等の文章と関わり、私たちが、本島内で刊行されていた新聞だけに目が向いていたためである。しかも、本島内で刊行されていた新聞は、彼が詩を発表し始めていた頃のものかどういふわけか欠損して、まずその新聞から探し始めなければならないというような状態が続いているのであり、今の所、彼の詩を探し出すのはこの次であり、簡単なことではないのである。そのために、多くの獺の詩愛好者は、詩集以前の詩について手をつけることができなかつたし、ほとんどあきらめていたとも思えるのである。

獺が、何故本島の新新聞だけでなく、発刊間もない「八重山新報」に多くの詩を発表していたのか、また、何故多くの自伝的文章を残しながら、「八重山新報」に掲載された詩のことについて一言もふれてないのか、今後の問題となるが、彼の詩が、「八重山新報」に掲載されていたのを発見したのは、獺の初期研究を大きく前進させる出来事であった。

獺の詩が「八重山新報」に掲載されていたのを発見するまでの細かな経過は省くが、それは、最初から獺の詩発掘を目的としてやった事ではなかつたのである。もっと遠大な目標、すなわち「沖縄近代文学集成・新聞篇」の一つ「沖縄近代詩集成・新聞篇」を完成していく上でのおもしろい発見であった。

玉城園美さん、比屋根治枝さんは、二カ年がかりであつたし、さらに彼女らの先輩が、以前からそれと関わって仕事を始めてもいたのであり、そのような地道な努力が、大変な収穫を、目標完成の前にもたらしたのであつた。

新聞報道後、獺詩愛読者の資料借用が相次いでいるが、その中で、もっとも驚ろかされたことの一つに、富山市に住む方からの「沖縄タイムス」杜宛書簡、及び贈書があつた。「沖縄タイムス」5月7日付朝刊は、そのことを社会面で報じたが、その方（名前を出さないで欲しいとのことであるので、名前を伏す）は、獺の研究者でもなんでもなく、四十年あまり北アルプスの山々を歩き回つた方で、4月9日付の「沖縄タイムス」記事に感銘を受け、保存していた雑誌と詩集とを送つて下さつたのであつた。

これは意外な反響であつたが、その方が、「獺詩発見」のニュースに反応した背景に、沖縄との心暖まる出会いがあつたかと思われる。というのは、1970年前後に、立山から槍穂へ向かうという沖縄からの登山者、大学生らしい4、5人のグループと会つていて、しかも彼らから、クバ笠（と思われるもの）をもらつて今なお大切に保存しているということを書いていられるからである。もし、その登山者たちと会わず、また、クバ笠をもらつていなかったら、恐らく、そのように新聞記事に反応しなかつたのではないかと思われるのである。

資料のうしろには何があるか解らない、というのはよくあるが、この出来事は、あらためてそのことを思わせるものであつた。

獺の初期詩篇発見は、私たちの計画の進行過程で会つた一つの僥倖とも呼べるものであつたが、それが機縁になつて、さらに大きな送り物を未知の方からいただいた感がある。

資料の発見は、勿論何ものでもない。問題は、それをどう自分たちの血や肉にしていくかにある、という先人の言があるように、新資料の発見は、それによってこれまでの研究に新しい光があてられるのでなければ、ほとんど意味のないことであると言えよう。

※ ※ ※

「八重山新報」に発表された山之口獺の初期詩篇を『新沖縄文学』編集者の好意で、同誌52号(1982、6月刊行)に一挙掲載させていただくことになつた。

(なかほど しょうとく：教養部助教授、文学)

ヤンバルギンモンカ (Topomyia yanbarensis Miyagi 1976)

発見の思い出

宮城 一郎

1974年12月、沖縄本島北部、与那の琉球大学演習林で蚊を調査中、竹の切株の水たまりからスポイドで1個体のポーフラが吸上げられた。このポーフラの特徴ある動作や色彩は、これまで日本各地で多くの蚊を観察してきた私の脳裏に強く焼付いた。はやる気持を押え、大急ぎで研究室にもどった時は、もう夜9時を過ぎていた。大切に特別な容器に入れ持帰った幼虫を顕微鏡下で文献によって早速検索しはじめた。私の勤めの中した。この蚊はこれまでに日本から全く記録がない東南アジア特有の Topomyia 属にぞくする蚊の幼虫であることが判明した。しかし、幼虫1個体だけでは、これ以上研究を進めようがない。この日あちこちの竹の切株から採集した約3,000個体の幼虫の中には、この蚊は含まれてなかった。仕方がない、とにかくこの1個体を大切に飼育し羽化させ、成虫が得られれば同一個体の幼虫、蛹の脱皮殻が標本として得られる。私はこの幼虫を大切にシャーレに入れ帰宅した。翌朝、私の悪い予感通りシャーレの幼虫は死亡していた。昨夜検索のため、あまりにも悪い条件下(顕微鏡下)に長時間置いたからであろう。死亡個体は直ちにバルサムで封じ、永久プレパラート標本を作成した。種名決定には、どうしても追加標本が必要である。私は講義、会議、雑用のあい間をぬって1週間後、再度、同じ場所を訪ねた。蚊の発生源は種によって大体決っており、竹の切株の水たまりに発生する種はめったに湿地、池、川などのたまりでは発生しない。2日間の採集で竹の古い切株を徹底的に採集した。しかし、Topomyia らしい幼虫は1個体もとれなかった。この様な調査は毎月1回、3月まで行ったが、やはり採集できず、とうとう「幻のポーフラ」になってしまった。

1975年4月、京都で日本衛生動物学会が開催され、日頃蚊の研究面でいろいろアドバイスを受けている台湾の連日清博士と久振りゆっくり酒をのみながら話す機会があった。この時、博士は「琉球列島の蚊の調査は進んでいますか。これはまだ公表する段階でないが、実は台北で面白い蚊が1個体、竹の切株からとれ、もう2年間も探しているが、どうしても追加標本を得ることができず、困惑しているのだヨ。この蚊は多分 Topomyia 属に入る原始的な蚊で生息場所は限定され、移入された種でないと思う……………」全く同様なことを博士にだけは話しておこうか、どうしようと、少々迷っていた私は「エエ！ 実は私も昨年沖縄本島北部の竹切株たまりから1個体 Topomyia らしい幼虫を採集し、目下、探しつづけているが……………」二人はこの幻の幼虫の形態的特徴、発生源の特徴など、現在までの知る限りの情報を腹藏なく話しあった。「どうもこの台湾と沖縄の幻の蚊は同一種らしい。それではこうしよう。この属の蚊は雄成虫の生殖器の形態に種の重要な特徴があるらしい。そこで、どちらか早く雄を採集した方に先取権を与え、命名することにしようではないか」博士は最後にこう言って別れた。さあ大変、この競争にはどうしても負けられない。私は大急ぎで沖縄にもどり、文献により、これまでに東南アジアから記載されたこの属20種についての発生場所、習性などを調べた。いずれの種も哺乳類からは血を吸わないらしい。幼虫は竹の切株、バナナ、クワズイモの葉腋の水たまりなど特殊な所に発生する種が多いこと以外は全く不明である。4月末、新学期開始で、何かと忙しい毎日だったが、土曜日の午後、美しいヤンバルの海に落ちる大きな夕日を眺めながら北へ北へと走った。翌朝夜が明けるのを待ちかねて、懐中電燈を手にいつもの林内に入った。まず、先月の調査の時に新しく切った50本の竹の切株をスポイドで丹念に水とともに幼虫を吸上げ、スポイドの中の幼虫を電燈で照し確認した。驚いたことに50本の内、2本からそれぞれ1個体ずつ「幻の幼虫」だけが

採集され、他の竹には全く幼虫がいなかった。研究室に持帰った2個体の幼虫は1週間後に、銀色のスマートな雌が羽化した。この成虫は、ふだん蚊の飼育に使っている小型の布ケージに入れ、他種と同じ方法で飼育した。ところがどうでしょう。確かに入れたはずの蚊がケージの中にいない。布の網目(1.2mm)は破れていない。常識では脱出は考えられない。数日後もう1個体、今度は雄が羽化した。もう一度同じケージにこの成虫を入れ、私は長時間観察の構えで机に向い、ケージの蚊に注目した。やがて蚊は忙しく動きはじめた。よく見ると左右の前肢を布の網目に突込み、こじあけるようにして頭をおしこむ。まるでモグラが土の中を切り開いて行くように、簡単に網目をくぐって脱出した。そのすばやい、巧みな脱出。それに、50本の青い生の竹の切株にわずかに2個体しかいなかったこと。この二つの事実はこの蚊の本来の住家(発生源)と大いに関係しているに違いない。何回、那覇とヤンバルを往復すれば解決するのだろうか。ちまたの声にも聞せず、今度こそはとまた、この前2個体を採集した竹筒を見にいそいそと出かけた。とうとう全ぼうを明らかにすることができた。この蚊の幼虫の本来の住家は竹の切株でなく、青い(生)竹の節と節の間にサビアヤカミキリムシによって開穴(直径1.2mm程)された竹筒の水たまりである。竹筒内の水は雨水でなく、竹の根から吸上げられた水であろう。この蚊の雌成虫は多分カミキリムシによってあけられたこの小さな穴にお尻を突込み産卵するのであろう。閉鎖された竹筒内の水域は、幼虫にとっては、水が涸れることがなく、天敵の侵入も少ない恵まれた住家である。研究室で観察したあの巧みな脱出芸は、この小さな穴からの脱出に必要なのである。カミキリムシによって開穴された竹は意外に多く、決して「幻の幼虫」でないことにこの時はじめて気付いた。なぜこんなこと、もっと早く気づかなかったのだろうか。美しい銀光色のスマートな山原産のこの蚊にヤンバルギンモンカと命名し、上記の特異的な生態を加えた記事を早速、台湾の連博士に送った。「コロブスの卵とはこの事を言うのですね。台湾でも同様、多数発見できました。ヤンバルギンモンカ万才!……………」日本語が堪能な博士からさわやかな返事が届いた。

(みやぎ いちろう：保健学教授，医動物学)

ブラウジングコーナー

水 泳 大 会

校内水泳大会もたけなわとなり、教員対抗のリレーが始まった。僕等の担任の先生は色浅黒く見るからにスポーツマンタイプの方だった。今や先生の組は二番目を泳いでいる。生徒たちはわが先生が抜きはなして一着になるのは間違いないと、かたずをのみタッチ寸前の先生の雄姿をみた。とびこみのかまえのフォームもすばらしい。飛びこんだ!足から先に?。生徒たちは呆気にとられた。泳ぐ泳ぐ、しかし妙だ。手は泳いでいる風だが、足が見えない。足は大地についているのだ。いわゆる歩泳だ。見る見るうちにビリになった。「ガッカリしたなあもう」と生徒たちはボヤイタが、顔は笑っていた。むしろ先生に好感がもてたという感じであった。やはりスポーツは勝つことより参加することに意義があるのか?。

参考係 T. Y.

お知らせ I

夏期休暇中の図書館利用について

1. 開館時間

月～金 9:00～17:00

土 9:00～12:30

(日曜, 祭日は閉館)

2. 長期貸出

期間: 6月21日(月)～8月31日(火)

冊数: 学部学生: 和書—3冊, 洋書—3冊, 指定図書—2冊

院生: 和書—5冊, 洋書—5冊, アメ研図書—5冊

(閲覧係)

お知らせ II

複写専用機の利用

ご存知ですか! キヤノンNPマチックプリンター450 II

図書館には、キャノンNPマチックプリンター450 IIがあります。キャノンNPマチックプリンター450 IIとは、35mmマイクロフィルムやアパッチャーカードから、普通紙へ拡大してコピー出来る複写機です。

従来のリーダープリンターでは、コーティングされた紙(感光紙)でマイクロフィルムからコピーしましたが、感光紙は熱や光などで変色し、消えてしまう性質があるので長期の保存は出来ませんでした。しかしキャノンNPマチックプリンター450 IIの出現で、普通紙にマイクロフィルムのもつ繊細な部分までそのままコピーされ、勿論永久保存も可能になりました。

ついこの間の出来事でしたが、或る助教授が、マイクロフィルムからリーダープリンターでコピーしました。数ヶ月後に、そのコピンを整理するため開いて見たところ、ほとんどの文字が消えていたと云う。かなりの分量のコピーで、金額も相当に支払った様子でしたから慌てたことは言及するまでもない。それはリーダープリンターが感光紙を使用しているために、熱や光などで消えてしまう性質があるからです。このような時には、先ず永久保存のきくキャノンNPマチックプリンター450 IIをご使用下さい。

保存用のマイクロフィルムも、このように簡単にコピーし利用できるのです。キャノンNPマチックプリンター450 IIを大いに活用して、研究や学習にお役立て下さい。

核アレルギー性「オランダ病」と核偏執狂

竹 田 秀 輝

「ストックホルム・アピール」,「ラッセル・アインシュタイン宣言」,「ゲッティンゲン宣言」などに象徴される1950年代の核兵器廃絶・核兵器の使用禁止を中心内容とする諸運動の高揚からほぼ30年。

今また、現実の国際政治・国際関係に重大な影響を及ぼすような全地球的規模での反核・平和運動が展開されつつある。

これは、1977年7月、当時の米大統領カーターが中性子爆弾（放射能強化弾頭—「きれいな・人道的な核兵器」なのだそうだ!?)の開発を公表したのを直接の契機とし、さらに、1979年のNATO諸国外相・国防相会議で新型核ミサイル（パーシングII型ミサイルや巡航ミサイルなどの戦域核兵器）を西ドイツ、オランダ、ベルギー、イタリア、イギリスに配備することが決定されたことと密接に関連している。

もう一つつけ加えるならば、最近、レーガン政権による執拗な核兵器先制使用発言（米・ソ両大国を聖域化しつつ、ヨーロッパ、中東、アジアにおける戦域核戦争を構想し、その中でアメリカによる核兵器の先制使用の可能性について言及）が、とりわけ当該諸国人民にとっては核保有大国の「核偏執狂」の必然的帰結であるとする危機的認識にあるように思われる。すなわち、諸民族の絶滅と地球の破滅とが、たんなる「恐怖の問題」を越えて、「時間の問題」にもなりつつあるという、人類と地球とにとって最も根源的な危機意識に根ざしているといつてよいように思われる。

この際忘れてならないのは、アメリカの一連の核に関する最近の言動の口実とされているのが、ソ連のSS20型中距離ロケットの配備（1970年代後半にソ連領内東ヨーロッパ側に配備）とバックファイア型爆撃機の配備、さらにソ連によるアフガニスタン侵略、ポーランドに対する大国主義的干渉であったということである。

いずれにせよ、今日における米・ソを中心とした核兵器の開発とその配備における狂気の悪循環を根本から打ち切り、核兵器による諸民族の絶滅より以前に、諸民族による核兵器の絶滅を実現するには、「軍拡による軍縮を」(!?)などと国会の内外で公言してはばからないようなわが日本政府や米・ソ両国を中心とした核保有大国の政権を、あらゆる反核・平和の国際的世論を総結集することによって、政治的に絞殺する以外に術はない。

ワシントンでの50万人大集会（1981年9月）、ロンドンでの25万人大集会（1981年10月）、ボンでの30万人大集会（1981年10月）、ローマでの30万人大集会（1981年10月）、アムステルダムでの40万人大集会（1981年11月）、さらに今年に入って広島での20万人大集会（3月）、東京での30万人大集会（5月予定）……………。

- いずれも史上空前といわれた大集会である。経済的要求と密接に結びついたこれらの大集会は、それぞれの自国内の政治も、国際政治をも現実にも動かさしめる実に貴重な反核・平和の国際的・政治的示威であるといつてよい。

大集会だけが能ではない。これらの大集会の背後に、どれほど地道で苦勞の多い草の根の小運動の巨大な広がりがあったことであろうか。

草の根の反核・平和運動を支えている諸組織の主なものを、イギリスの例でみてみよう。

第一グループ（平和関係諸組織）

- ①イギリス平和委員会(本部：ロンドン)②全英平和連絡グループ(ロンドン)③反軍国主義同盟(マン島)④軍国主義反対運動(ロンドン)⑤バートランド・ラッセル平和協会(ロンドン)⑥良心的参戦拒否者中央センター(ロンドン)⑦武器の貿易に反対する運動(ロンドン)⑧貧困と武器の貿易に関する委員会(ロンドン)⑨平和のための労働者行動委員会(クロイドン)⑩山岳平和行進(ロンドン)⑪非暴力ロンドン大学(ロンドン)⑫平和のための国際カトリック運動(ロンドン)⑬平和ニュース(ロンドン)⑭平和の保証連合(ロンドン)⑮世界の軍縮のための婦人運動(ロンドン)⑯世界軍縮運動(サレー)

第二グループ(反核関係諸組織)

- ①核技術への対案運動(オックスフォード)②反核運動(ロンドン)③核廃絶運動(CND, ロンドン)④ヨーロッパ核廃絶運動(END, ノッティンガム)⑤エネルギー2,000(シェフィールド)⑥地球の友(ロンドン)⑦未来研究センター(リーズ)⑧核関係連絡網(バーンサイド・フェンダル)⑨原子炉自警団(サマーセット)⑩放射能と健康に関する情報サービス(ケンブリッジ)⑪核エネルギーに反対する学生運動(ロンドン)⑫核脅迫に抵抗するスコットランド運動(エディンバラ)⑬底流(ロンドン)

第三グループ(自然保護・環境問題関係諸組織)

- ①ヨーロッパ自然保護グループ(サレー)②平和と自然保護運動(ロンドン)③環境と資源に関する社会主義協会(ロンドン)④自然保護主義者(コーンウォール)⑤自然保護党(ケント)⑥自然保護法律家グループ(ロンドン)⑦天然エネルギー協会(ロンドン)⑧新時代の接近法運動(ヘクサム)⑨実用的自給自足運動(サックロン・ウォルデン)⑩地球調査研究センター(ロンドン)⑪緑色布告行動委員会(バーミンガム)……………

こうした諸組織の地方都市・農村・職場・学園などにおける支部組織の多様な活動とともに、伝統的な労働党・共産党・労働組合・民主諸団体・革新自治体などの全国的な諸活動をも考慮するならば、いかに広範な人びとが参加しうる基盤が存在するかが想像できるというものである。ちなみに、先のロンドン大集会はCND主催のものであった。

原水爆禁止運動ということで反核・平和運動の世界的メッカである日本・沖縄でもかつてない運動が展開されつつある。大学人だけが「燃えにくく、冷めやすい」などと後世から嘲弄されたくないものである。
(たけだ ひで^きでる：教育学部助教授地理学)

お知らせ III

琉球大学附属図書館沖縄研究資料調査収集小委員会

図書館に沖縄研究資料調査収集小委員会(昭和57年3月15日の第139回附属図書館運営委員会で作決)が出来ましたので、お知らせします。

設定理由、内規、委員は次の通りです。

制定理由

沖縄は独特の文化圏を形成しているといわれ、内外の研究者の注目するところであるが、去った

大戦で県内の資料は殆んど散逸している。附属図書館では鋭意沖縄研究資料を収集してきたが、図書館だけでは収集できない側面もあり、又種々の沖縄研究資料が、新たに発掘されているのを見聞するとき、沖縄研究の中心となるべき琉球大学が、積極的にこれらの資料を収集すべきであると考え

る。後代に悔を残さないためにも、更に未来への貴

重要な文化遺産とするためにも、是非計画的に沖縄研究資料を収集し沖縄研究の発展に寄与したいので、各分野の専門家、研究者からなる「沖縄研究資料調査収集小委員会」を設置し、資料の所在調査、収集すべき資料の選択、予算の獲得等を組織的、計画的に行う必要がある。

内 規

(設置)

第1条 琉球大学附属図書館運営委員会の下に、沖縄研究資料の整備を図るため、琉球大学附属図書館沖縄研究資料調査収集小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 附属図書館長が、図書館運営委員会の議を経て委嘱する者若干名。

(2) 附属図書館事務長

(委員の任期)

第3条 第2条第1号に規定する委員の任期は、3年とする。ただし、再任を防げない。

2 前項の委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる必要な事項について審議するとともにその運営にあたる。

(1) 資料の調査及び収集に関すること。

(2) 予算に関すること。

(3) その他沖縄研究資料の整備に関すること。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要があるときは、委員以外の者に出席をもとめて意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、附属図書館事務部総務係および参考調査係において、処理する。

附則

この内規は、昭和57年3月15日から施行する。

委員名

法文学部

助教授 宮城悦二郎 広報学

教育学部

教授 仲松 竹雄 国語学

助教授 菊山 正明 社会科教育

教養部

助教授 仲程 昌徳 文学

教授 比屋根照夫 政治学

助教授 鶴飼 照喜 社会学

助教授 目崎 茂和 地理学

助教授 森田 孟進 仏語

短期大学部

教授 我部 政男 政治学・政治史

教授 比嘉 政夫 文化人類学

36 年 目 の 「 離 乳 」

屋富祖 昌 子

近頃しきりに主体性という言葉が気になりはじめた。不慮^怒の年、を目前にしたせいかもしれないが、日頃のこまごました事柄の中に、一体誰が主人公なのかを疑問に思う事があったからである。

一つは子供の学校生活で、親が子供の教育について教師と話合う機会が無いことである。子供の生活を見ていると、いかにも過重負担である。確かに文部省の指導要領をこなそうと思ったら、教師は子供を管理してやらせるしかない。そして指導要領の基準に達したか否かで子供を選別する。これは恐い事である。個々の創造性を発展させる事こそ教育の目的であり、そこに人間の尊厳が存在する。従って特定の価値観で人を選別する事はこの尊厳を傷つけるものである。

ところで、このような教育の歪みの裏にはもう一つ、子供の親でもあり同時に教員を養成する側でもある私達の、意識の問題がありはしないだろうか？

最近光熱費の膨脹に悩まぬ学部は無いと思う。移転して規模も大きくなり、大型機器も増えた上に、大幅な電気料値上げもあったのだから、膨脹するわけである。しかし、これを全学の要求として国に予算請求するかわりに、むしろ内部でやりくりしようという雰囲気強い。節約には大賛成だが、クーラー一つとっても、それが標本やフィルムの保存とか、機器の運転、仕事の能率向上に必要なならば、寒地の暖房費と同じく国に要求すべきものである。防衛費を削れば（主権者である私達が戦争をしたくないならば防衛費はいらない、ついでにキャンパスの上を飛ぶ米軍機も無くしたい）予算は充分にある。まさか国に予算を請求するなと云う決定を大学がしているわけではないから、内部のやりくりで、という考え方は私達自らの姿勢なのかかもしれない。無駄は省くべきだが、必要以上の自主規制は時には、発展させるべき主権者としての意識を麻痺させはしないだろうか？

同じように国際交流についても、私は不安と疑問を感じてならない。文部省は拠点大学方式で、外務省は沖縄に国際交流センターを、と競って東南アジアに目を向けている。交流の方法の一つとして、農学部は拠点大学の協力校として組織加盟した。また琉大財団の基金も利用されている。いづれも主な対象国はASEAN諸国である。これらの国々はアメリカが軍事、食糧両戦略上、重視して日本に協力を求めている地域でもある。学術月報の30巻10号（1978年）には「発展途上国との学術交流」(学術審議会常任理事笠木三郎氏)という一文が載っており、その中で、このような学術交流の意味するものとして「学術交流は、……対等が原則である」が、「しかしながら……実施面では、配慮が必要となる。その配慮がなくてすむ時期の到来は、それぞれの国の政治的、経済的、社会的な安定と充実の度合によって、実体的に定まってくる」ものであり、かつまた「学術交流それ自体は……政治や経済とは別の体系であり、外交の手段でもない。しかし、それが知的連帯という最も永続的、かつ、波及効果の大きい成果をもたらす点において、高度の政治的意味をもつことは確かである」と、指摘している。

個々の研究者が善意と知的好奇心によって交流を考えていても、国の方針と組織はそれとは全く異なる所に置かれている。アメリカの各種戦略に日本政府が加担している今、このま、行けば私達もまた（意に反して）戦争の協力者、他民族への加害者となろう。平時には侵略に反対していても、それが時流となれば（自己弁護しつつも）いつしかそれを是とする弱さを私達は持っているのだから。

現在は国民主権となってはいるが、長い歴史の中で、日本人の精神文化の支柱は、親・大名・天皇

等々、時代や状況によって変化はあっても、いづれも権力を持った他者ではなかったろうか。支配され、搾取されてもなお、価値ある人生とは自己を抑えてこれらの他者につくす事ではなかったか？戦後はじめて、私達は価値判断の基準を自らの中に持つ事が出来るようになった。憲法がそれを保証している。こゝに初めて、権力を持つ他者から精神的に離乳したと考えられよう。

その後36年。天皇一家の写真を載せると週刊紙の売上げが伸び、吾が代ならぬ君が代が国歌とされた。経済の高度成長、青少年非行と、わづかの間に急激な変化を受ける中で、私達はまた、いつしか主体性を失った価値観に傾きつゝあるのではなからうか。

もし私達が自らの力を、大国の戦略の為にではなく、全ての人々の生存と豊かな次世代の育成の為に用いるならば、そこにこそ真の国際交流が生まれるであろう。これはまた、35年間の離乳期から自ら歩^む成長期へ、即ち主体性を確立した人間社会へと、私達を進ませる自負でもあろう。泥まみれの息子の頭をなでながら、私はそれを思う。(やふそ まさこ：農学部助手昆虫学)

お知らせ IV

琉球大学附属図書館施設利用内規

琉球大学附属図書館施設利用内規が出来ましたので、演習室、視聴覚室をご利用下さい。申し込み用紙は、2階カウンター（参考調査係）に備え付けてあります。

担し、語学学習室（L.L.）は、現在のところ機器が整備されていませんので、当分の間は使用出来ません。

（趣 旨）

第1 この内規は、琉球大学附属図書館(以下「図書館」という。)の演習室、視聴覚室および語学学習室（L.L.）の利用について必要な事項を定める。

（利用目的）

第2 演習室および視聴覚室は、図書館が主催する行事のほか、本学教官が行う研究、教育活動および特に館長の許可を得た者が、利用することができる。

2 語学学習室は、図書館に所属する視聴覚資料を用いて、語学学習をする場合に利用することができる。

（利用時間）

第3 演習室、視聴覚室および語学学習室の利用

は、開館日とし、平日は8時30分から17時までとし、土曜日は8時30分から12時30分までとする。

2 演習室および視聴覚室を連日利用する場合は、6日以内とする。

（利用責任者）

第4 演習室又は視聴覚室を利用しようとするものは、利用者の中から責任者（以下「利用責任者」という。）を定めなければならない。

（演習室、視聴覚室の利用）

第5 利用責任者は、利用申込書に必要事項を記入の上参考調査係に提出し、許可を受け、利用許可書の交付を受けなければならない。

第6 利用責任者は、利用当日係に利用許可書を

提示し、鍵を受け取るものとする。

- 2 利用責任者は、室内の諸設備を操作および備品の移動を行う場合は、係員に申し出て、その指示に従わなければならない。
- 3 利用責任者は、利用後室内を原状に復し、安全を確認の上施錠し、係に利用許可書および鍵を返却しなければならない。

(語学学習室の利用)

第7 語学学習室を利用しようとする者は、参考調査係に申し出て、語学学習室利用届簿に必要な事項を記入し、利用許可書の交付を受けなければならない。

- 2 利用者は、利用後機器の安全を確認の上、係に利用許可書を返還しなければならない。

(注意事項)

第8 利用中事故を起し、又は備品等を損傷したときは、直ちに係に申し出て、その指示に従わなければならない。

(利用許可の取り消し)

第9 利用者が次の各号に該当すると認められたときは、利用の途中であっても、利用許可を取り消すことがある。

- 1 利用目的又は利用者が相違しているとき。
- 2 利用当日利用許可書を持参しないとき。
- 3 係に連絡なしに、利用許可の指定時刻を30分経過しても利用を開始しないとき。
- 4 図書館の利用に関する諸規程およびこの内規に違反したとき。

附 則

この内規は、昭和57年4月1日から実施する。

演習室 利用申込書
視聴覚室

昭和 年 月 日

琉球大学附属図書館長 殿

利用責任者 所属
官職
氏名 印

下記のとおり利用したいので許可願います。

利用目的	
利用者数	職員 名 学生 名 学外者 名
利用日時	年 月 日 時 ~ 時
希望室名	演習室 視聴覚室
使用 機器名	
利用 資料名	
持参 資料名	
備 考	

演習室 利用許可書
視聴覚室

昭和 年 月 日

殿

琉球大学附属図書館長

下記の利用を許可します。利用内規に従って利用してください。

利用目的	
利用者数	職員 名 学生 名 学外者 名
利用日時	年 月 日 時 ~ 時
希望室名	演習室 視聴覚室
使用 機器名	
利用 資料名	
持参 資料名	
備 考	



“日本人の進路”

これからの日本 —四つの課題—

中山太郎, 梅棹忠夫共編 サイマル

出版会 1981

日本人論や日本文化論が盛んになったのは、ハーマンカーンやガルブレイス等いわゆる有名外国人の21世紀日本の時代論に始ってからのことであり、特に最近では日本人による日本文化論が多くみられるようになってからは日本文化論が開花した観がある。

このような状況は日本が第二次大戦に大敗し、壊滅状態から立ちなおり、すばらしい経済発展をとげると同時に、価値観の喪失から自分自身をとりもどし自信をもつにいたったこと等によることは間違いない。

しかし日本が短時日のうちに経済大国になったため世界のいたるところで経済摩擦を引きおこす結果になった。世界平和があつての経済発展だが国際状況は必ずしも安心できるものではなく、エネルギー問題、食糧問題、東西対立、老人問題等その他非常に流動的で今日ほど不安定な時代はないといわれている。

このような国際不安、社会不安の時代にこの本が公にされたということは非常に時宜を得た出版物ではないだろうか。これからの日本を我々はどう生きて行かなければならないか真剣に考える時期にきていると思う。

ちなみにこの本は、第1章いま、何を急ぐべきか、のなかで、①日本型“三階建て”福祉モデル、②頭脳資源をどういかすか、③脱石油時代と情報戦略、④付加価値と文化の時代、⑤国際的な対応への人づくり、⑥前提条件の見直し、⑦急ぐべき四つの課題、第2章科学技術立国と創造性、①日本に独創性はないか、②研究機関のスクラップ&ビルド、③科学技術界への五つの提案、④日本文化のなかのサイエンス、⑤将来の鍵、人的流動性、⑥エクセレンスを育てる教育、第3章高齢化社会の日本的モデル、①高齢化社会は女性の問題、②バイタリティーある高齢化社会、③法的整備の必要性、④学際的老年学のすすめ、⑤高齢化社会の家族観、第4章「文化の時代」の産業論、①文化は産業になりうるか、②文化投資の波及効果、③“道楽文化”の生かし方、④現代の“国分寺”構想、⑤なぜ博物館の時代か、⑥家計にみる情報化社会、第5章国際化をいかに進めるか、①日本の国際化水準、②人材を生かせるシステム改革を、③食糧の安全保障は大丈夫か、④世界に通用する大学を、⑤国際化はどこまで必要か、⑥日本のPRと国際協力等となっている。

この本は前の総務長官であつた中山太郎氏と梅棹忠夫氏共編による「総務長^官とこれからの日本を語る会」(編者を含む15人の学者、専門家等)の懇談事項をまとめたものである。

日本人に対する国際世論は経済摩擦を背景に色々な点で厳しいものがあり、この機会に自分自身をみつめると同時に世界の中の日本人というのをみつめなおす必要があるのではないだろうか。

なお本館にもすでに受入済みであり興味のある方は一読されるようお勧めします。

(閲覧係 新井裕丈)

〔本学教官著書寄贈コーナー〕

今回は、昭和57年2月16日より昭和57年5月17日まで御寄贈頂きました分を掲載致します。敬称略

- 杉浦 正輝〈保健〉 「現代社会福祉事典」全国社会福祉協議会
- 木崎甲子郎〈海洋〉 「沖縄の島じまをめぐって」築地書館
- 野原 朝秀〈教育〉 「現生化石エントモストラカ（オストラコーダとシリペディア）の生物地理学的研究」東京大学理学部発行
- 川添 雅由〈社会〉 「中部地区老人福祉の展望，第1次～第5次」沖縄市・浦添市・宜野湾市・具志川市・石川市及中頭郡老人福祉センター運営協議会発行
「中部地区単位老人クラブ（第2次実態調査報告書）」中部地区老人クラブ連合会発行
- 浅野 誠〈教育〉 「行事・文化活動と集団づくり（沖生研シリーズ1） 明治図書
「へき地・小規模校の集団づくり（沖生研シリーズ2）」 明治図書
「民主的な子を育てるために（沖生研紀要第6～9号）」 沖縄生活指導研究会発行
「おきなわの教育実践，10～16号」（民主的な子を育てるために）の改題
- 池原 真一〈退官〉 「熱帯蔗作経営論」 日本分密糖工業会発行
「沖縄糖業統計」農林統計協会発行
- 石川 清治〈教育〉 「乳幼児の生活指導」北大路書房
「幼児の教育第81巻2号」日本幼稚園協会発行
- 西 賢祐〈法文〉 「Management scanning process」, Saiko Pub. Co. c1979.
「経営戦略と情報収集」中央経済社。
- 中松 竹雄〈教育〉 「琉球言語地図第1集」九州大学出版会
「琉大国語第1集」琉大教育学部発行

以上のうちおもな著書は玄関正面のショーケースに展示してあります。

新着図書案内

- | | | |
|----------------------------------------------------------|-----------|----------------------------------------------------|
| 回想・私と図書館—文部大臣賞を受賞し
て— 東京，日本図書館協会，1981，
319p. 22cm. | 010.4-N77 | ルジエス，D.ユイスマン著，白井成雄
他訳，東京，筑摩書房，1980，2冊，
22cm. |
| 哲学教程—リセの哲学—上，下，A. ヴェ | 101-V61 | 現象学の道—根源的経験の問題—L. ラン 134.94-L.22 |

- トグレーベ著, 山崎庸佑, 他訳, 東京, 木鐸社, 1980, 354p, 20cm.
- 知的行動の脳モデル, D. ピンドラ著, 富田達彦訳, 東京, 誠信書房, 1980, 479p, 22cm. 140-B44
- 自己と対象世界—アイデンティティの起源とその展開—, E. ジェイコブリン著, 伊藤洸訳, 東京, 岩崎学術出版社, 1981, 286p, 22cm. 141.93-J12
- ブロークン・タプラー—親子相愛の家族病理—, B. ジャスティス, R. ジャスティス共著, 山田和夫, 高塚雄介訳, 東京, 新泉社, 1980, 305p, 19cm. 145.7-J98
- 引き裂かれた心と体—身体の背信—, A. ローウエン著, 新里里春, 岡秀樹共訳, 大阪, 創元社, 1981, 281p, 19cm. 146-L95
- 佛との出会い, 紀野一義著, 筑摩書房, 1981, 326p, 20cm. 180.4-Ki45
- 古文書解説用語事典, 池田正一郎編, 東京, 新人物往来社, 1981, 473p, 20cm. R-210.02-I32
- 戦国名将の居城—その構造と歴史を考え—, 桜井成広著, 東京, 新人物往来社, 1981, 240p, 22cm. 210.46-Sa47
- 近代日本と伊波普猷, 比屋根照夫著, 三一書房, 1981, 294p, 23cm. K-289-H79
- 日本地名語源事典, 吉田茂樹著, 東京, 新人物往来社, 1981, 488p, 20cm. R-291.03-Y86
- 市町村大字読方名彙・日本地図帖地名索引, 小川琢治編, 東洋書林, 1981, 2冊, 22cm. R-291.034-O24
- 権力止揚論, 沢登佳人著, 東京, 大成出版社, 1981, 337p, 22cm. 321-Sa96
- サブライサイド・エコノミックス—最新アメリカ経済事情—, 斎藤精一郎著, 東京, 日本経済新聞社, 1981, 230p, 20cm. 331-Sa25
- 信用論研究入門, 信用理論研究会編, 東京, 有斐閣, 1981, 400.9p, 22cm. 338-Sh69
- しきたり文化の再発見—佐久間進対談集—, 佐久間進編, 日本儀礼文化協会, 1981, 255p, 22cm. 387-Sa45
- 日本の国防体制への提言—くずれるミリタリー・バランス—, 隊友会, 1981, 282p, 19cm. 390.8-B62
- 「科学者の社会的責任」についての覚え書, 唐木順三著, 東京, 筑摩書房, 1980, 170p, 20cm. 404-Ka62
- 演習力学, 今井功他共著, 東京, サイエンス社, 1981, 156p, 22cm. 423-I43
- 地形学辞典, 町田貞他編集, 東京, 二宮書店, 1981, 767p, 22cm. R-454.033-Ma16
- しろありと住居, 福島正人著, 理工図書, 1981, 150p, 19cm. 486.7-F84
- 医事法と社会保障法との交錯, 佐藤進著, 東京, 勁草書房, 1981, 278p, 22cm. 498.12-Sa85
- 大気汚染の機構と解析—環境科学特論—, 鈴木武夫編, 東京, 産業図書, 1980, 301p, 22cm. 519.55-Su96
- 日本の地震と防災対策—地震対策と今後の課題—, 国土防災資料調査会編, 1981, 647p, 27cm. R-524.91-Ko45
- 宇宙からの訪問者—偉大な惑星人との会見記—, ジョージ・アダムスキー著, 久保田八郎訳, 東京, ユニバース出版社, 1981, 295p, 20cm. 538.09-A16
- さびを防ぐ事典—防錆防食事典—, さびを防ぐ事典編集委員会編, 東京, 産業調査会出版部, 1981, 1冊, 27cm. R-563.7-Sa11
- ろくろと挽物技法, 中村源一著, 横書店, 1981, 140p, 22cm. 583.8-N37
- ベックさんのドイツ菓子, ミンヘン・ベック著, 婦人之友社, 1980, 183p, 21cm. 596.6-B32
- 単位のカタログ—国際単位系に親しむ—, 高田誠二, 大井みさほ著, 東京, 新生出版, 1978, 176p, 22cm. 609-Ta28
- 秘史日本の農地改革—農政担当者の回想—, 大和田啓気著, 東京, 日本経済新聞社, 1981, 332p, 20cm. 611.23-093
- 東南アジア, オセアニアの林業, 篠原武 650.224-Sh67

夫著, 東京, 地球社, 1981, 320p, 22 cm.		パースの記号学, 米盛裕二著, 東京, 勁 草書房, 1981, 238.4p, 20cm.	801-Y83
以西底曳漁業経営史論, 吉木武一著, 福 岡, 九州大学出版会, 1980, 336p, 22 cm.	664.45-Y89	言語の習得, E. オクサール著, 佐間進訳, 東京, 大修館書店, 1980, 267p, 22cm.	801.04-O53
日本のテレビ企業—ブラウン管の奥の人 間ドラマ—, 落合孝幸著, 東京, 実業 之日本事業出版部, 1980, 398p, 19cm.	699.9-O15	大都市の言語生活, 国立国語研究所著, 東京, 三省堂, 1981, 2冊, 22cm.	810.9-Ko49
油彩画の技術, 増補—アクリル画とビニ ル画—, グザヴィエ・ドラングレ著, 黒江光彦訳, 新版, 東京, 美術出版社, 1974, 681p, 函, 22cm.	724.3-L26	専門語の諸問題, 国立国語研究所著, 東 京, 秀英出版, 1981, 286p, 22cm.	814-Ko49
音楽の庭—武満徹対談集—, 武満徹他著, 東京, 新潮社, 1981, 235p, 20cm.	760.4-Ta63	時事英語辞典, 広永周三郎, 笹井常三編, 東京, 研究社出版, 1979, 419p, 19cm.	R-833-H71
ショパンの裝飾音, ジョン・ピートリー ・ダン著, 高橋隆二訳, 東京, 音楽之 友社, 1980, 108p, 20cm.	763.2-O97	言葉という思想, 吉本隆明著, 東京, 弓 立社, 1981, 285p, 20cm.	914.6-Y91
映画芸術論, J.H. ロースン著, 岩崎和訳, 岩波書店, 1967, 330.21p, 22cm.	778-L44	リングワールド, ラリイ・ニーヴン著, 小隅黎訳, 早川書房, 1981, 357p, 20cm.	933-N88
		チエーフ芸術の世界—覚醒と脱出への いざない—, 佐藤清郎著, 東京, 筑摩 書房, 1980, 385p, 20cm.	980.28-Sa85

図書館事情

[第139回図書館運営委員会要録]

日時: 昭和57年3月15日(月) 10:30~11:10

場所: 図書館会議室

議 題

- ① 琉球大学附属図書館沖縄研究資料調査収集小委員会の設置について

報告事項

- ① B. D. S. (ブック・ディテクション・システム) が設置され, 新学期より開始されることが報告された。
- ② 図書電算化の現状報告について
- ③ 正面玄関のレリーフについて

[第140回図書館運営委員会要録]

日時: 昭和57年4月19日(月) 10:30~12:00

場所: 図書館会議室

議 題

- ① 昭和57年度前期定例日について

- ② 琉球大学附属図書館施設利用内規（案）について
- ③ コンテンツ・サービスの再開について
- ④ 大型コレクション収集計画について
- ⑤ 沖縄研究資料調査収集小委員会について

報告事項

- ① ブック・ディテクションについて
- ② 附属小学校の図書館利用について

〈オリエンテーション〉

人員：美術工芸科の学生約20名

日時：昭和57年5月11日（火） 10：30～11：20

場所：図書館視聴覚室

〈図書館見学〉

人員：附属小学校4年生約120名

日時：昭和57年5月18日（火） 13：00～14：20

〈採用〉

4月1日（木） 本郷清次郎は整理係へ、外間尹隆は受入係へ

〈研修〉

4月6日（火），本郷清次郎整理係員，外間尹隆受入係員職員研修のため，人事員沖縄事務所へ，9日まで。

〈出張〉

3月15日（月），友利彦一総務係長，事務打ち合せのため，渡嘉敷村の国立沖縄青年の家へ。

3月15日（月），新井裕丈閲覧係長，図書館業務電算化事務研修のため，名古屋大学，名古屋工業大学へ，17日まで。

4月25日（日），木崎甲子郎館長，平良恵仁事務長，第12回九州地区国立大学図書館協議会及び，第33回九州地区大学図書館協議会総会に出席のため鹿児島へ，28日まで。

5月6日（木），平良恵仁事務長，第30回九州地区医学図書館協議会総会に出席のため宮崎医科大学へ，8日まで。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第15巻 第3号〔通巻第55号〕

昭和57年6月1日

発行人 平良恵仁 沖縄県中城村字南上原葦山原858

電話(09889)5-2221 内線(2143)